

平成 26 年度
福岡県移住者子弟留学報告書

2014 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

目次

02 南 美陽 ソフィア (ブラジル福岡県人会)
九州スクールオブビジネス メイクアップアーティスト科

08 行徳 さゆり ミリア (ブラジル福岡県人会)
福岡大学スポーツ健康科学部

13 行徳 政士 ロニー (ブラジル福岡県人会)
九州造形短期大学造形芸術学科

18 重 エリッキ 和男 (ブラジル福岡県人会)
九州大学大学院人間環境学府

22 タケシタ クリスティ (ペルー福岡クラブ)
九州産業大学芸術学部

25 エルナンデス 黒木 なつみ バネッサ (コロンビア福岡県人会)
折尾愛真短期大学経済学部

29 川波 直美 (在ボリビア福岡県人会)
九州観光専門学校 カフェ&スイーツ科

33 棚町 ヘラルド (メキシコ福岡県人会)
九州大学大学院地球社会統合学府

36 津留 アナ パウラ (アルゼンチン福岡県人会)
九州大学大学院歯学府



ブラジル福岡県人会
南 美陽 ソフィア

九州スクール オブ ビジネス メイクアップアーティスト科

初めに

私はブラジルのサンパウロ市から参りました。24歳です。父は日系ブラジル人で曾祖父が大刀洗町からブラジルへ移住しました。そして母は大牟田市出身です。私は生まれた時からブラジル福岡県人会に入っていて、いろいろなイベントに参加してお手伝いをしてきました。

2012年にブラジル連邦大学の栄養学部を卒業しました。大学2年生の時は栄養学に興味がなく、休みの時はメイクアップアーティストのアシスタントとしてアルバイトをしていました。メイクアップアーティストは、お客さんから笑顔をもらえる仕事なのでとても満足です。大学卒業後は、メイクアップアーティストとして働いて、ファッションショーや写真撮影や結婚式場などで働いていました。新しい夢を見つけたので、何でもできるようなメイクアップアーティストになりたいと思います。

日本では化粧は既に古墳時代からの歴史を持ち、現在は革新的な技術と化粧商品市場において世界有数の国の1つだと思います。福岡県移住者子弟留学生として、ヘアとメイクの技術を専門的に向上させるための勉強をして、ブラジルのメイクアップスタイルと日本のスタイルを合わせて自分のスタイルを作りたいと思います。日本への留学は夢を叶える為の1つのステップです。そして日本の文化も学び体験したいと思います。

日本の生活

福岡市に着いた時は少し不安でした。でも、他の留学生たちとすぐ仲良くなって家族みたいになりました。いろいろな文化を学んで楽しいです。スペイン語とポルトガル語は少し似ているけれど同じ言葉でも全然違う意味があってとても面白いなと思いました。福岡市で一番感動したのは安全性です。サンパウロ市は治安が悪いです。暴行が多いので夜になると通りを歩きません。家と建物にも高い塀があります。ですから日本に着いたときは驚きました。とても安全な場所で家も低い塀です。そして外出するときに、玄関のドアの鍵を閉めない人たちもいます。すごいと思いました。公共交通機関は素晴らしいです。駅はいつもきれいで電車の時間は正確でとても便利です。日本人はとても親切です。いつも手伝ってくれます。福岡市はとても便利で住みやすい場所です。

母国で四季は日本のようにはっきりしておらず、一年間ずっと同じ景色です。ですから、日本の季節はとても感動します。春は桜が多くて町は繊細なピンク色のイメージで、落ち着いた感じを受けました。夏はとても暑くて濃い緑の葉が多いです。セミのなき声はこの時期しか聞こえません。秋は紅葉がとても綺麗です。赤色や黄色に木の葉が色づいていきます。そして、冬はとても寒くて、木にはもう葉がないです。時々真っ白色な雪が降ります。

毎月、家族会のイベントがありました。日本文化を教えていただき、ごちそうも食べさせてくれました。初めてお米の作り方を見ました。田植えから稲刈りまでやりました。筍掘りとぶどう狩り

もしました。日本のぶどうはとても甘くて美味しいです。カキ小屋も初めて行きました。日本のカキはとても大きくてびっくりしました。美味しかったです。

また、浴衣をもらって着付けを覚えて花火大会で盛り上がりました。子どもの時から着物を着てみたかったので嬉しかったです。家族会の皆さんのおかげでこの機会を得ることができました。着物を着て大濠公園で茶道をしました。本当に嬉しかったです。

夏休みのこと

夏休みの1ヶ月前から、飛行機の値段を見たり、ホテルを探したり、どんな場所に行きたいかをインターネットで探し、夏休みの計画を立てました。最初の場所は茨城県のおばさんの家でした。田舎なので、20分歩いたら町を全部見ることができます。おばさんは、とても私を可愛がってくれて、毎日、美味しい物を食べさせてくれました。お盆の日は、お墓参りに行って、埼玉県の親戚の家に行きました。私はキリスト教徒なので、お盆は初めて参加しました。お盆の意味がわかって、感動しました。仏壇を綺麗にして、花や果物や和菓子や、祖先が好きな食べ物などを供えたり、きゅうりとなすで馬と牛を作りました。馬は祖先が早く戻りますように、そして牛はゆっくり帰りますようにという意味を表すということを知り、とても感動しました。私は、以前にも日本に来たことがありましたが、富士山を近くで見たことがなく、登ったことがありませんでした。ですから、県費留学生の重エリッキ君と富士山に登りました。夜の8時に登り始めました。8時間かかって、9合目につきました。山頂から雲だけが見えて、空を飛んでいる感じでした。とても寒くて、風が強く、気温は4度でした。その綺麗な景色を初めて見て、「日本」の意味がわかった気がして、感動しました。

青春18きっぷを使って兵庫県まで行きました。全部で14時間かかりましたが、2300円くらいしか、かかりませんでした。兵庫県には代父(カトリック教での)がいます。みんなに可愛がってもらって、お世話になりました。大阪城や梅田スカイビルやあべのハルカスなどへ行きました。代父と新幹線で広島市に行きました。広島平和記念公園に原爆ドーム、原爆の子の像を見に行って、すごく辛くて心が重くなりました。原爆死没者慰霊碑に記された文、「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」はとても心を打たれました。そして広島平和記念資料館に行ったら、悲しくて涙がぼろぼろ出ました。広島市は立派な町になってすごいと思います。

最後の場所は別府市でした。叔父さんの家にお世話になりました。のんびりしていて、この夏休みの疲れがとれ、リフレッシュできました。海のまえにある温泉に行きました。とても気持ち良かったです。最後の日は東椎屋の滝に連れて行ってきて、とても綺麗でした。

また、県人会担い手育成招へい事業に参加する機会を与えて下さった事に感謝しています。この経験のおかげで、私は様々な国の人々と出会うことができました。そして、日本の文化だけでなく、色々な国の文化を学んだり、友達を作ったり、たくさんの良い思い出を作る事ができて、とても良かったです。毎日忙しかったけれど、新しいことを覚えて、勉強になりました。子ども達は言葉が分からなくても、お互いが友達になりたいという気持ちがあって、ジェスチャーと会話で頑張って分かり合おうとしていて、感動しました。いつか子ども達と引率者達とまた会いたいと思います。この夏休みは最高でした。お世話になった皆さんに感謝しています。

勉強のこと

私は専門学校九州スクールオブビジネス（以下、KSB）のメイクアップアーティスト学科で学んでいます。学校ではメイクアップの勉強だけではなくヘアアレンジやネイル、皮膚概論、パーソナルカラー、Word、Excel、ペン字、社会性基礎スキル、ビジネス能力、キャリアガイダンスやサービスなども学んでいます。学校が始まる前はとても不安でした。「日本人と友達になれるかな?」、「授業は分かるかな?」と考えました。でも、生徒たちはみんな優しくいつも私を助けてくれます。先生たちも私のことを考えて、私に伝わるように分かりやすい説明をしてくれます。漢字が多いえ、知らない言葉がたくさんあります。でも、担任の渡辺先生は私のことを大事にしてくれて、悩みや悲しんでいるときなどは話を聞いて、支えてくれます。とても感謝しています。KSBで運動会や学園祭がありました。毎週土曜日と日曜日にオープンキャンパスがあります。高校生に学校のことを話したり、メイクアップ学科の紹介をします。オープンキャンパスは練習ができるのでごく勉強になります。学校はとても大変だと感じます。本を読めない、書けない漢字もたくさん、日本人に当たり前のことが私には分からないこともある、試験が多い、ストレスがたくさん、不安もいっぱいだけど新しいことを覚えたり、無駄な時間がないと思います。心の優しい人たちとも出会いました。そして、日本に来てからメイクアップアーティストになりたい気持ちが強くなりました。

最後に

この一年間はとても早かったです。でも、今までで一番豊かな年で幸せな時でした。メイクアップや日本文化を勉強して、知識を増やしました。そして、人間的に成長もしました。いろいろな人と出会えていい友達をたくさん作りました。いろいろな国の文化や違う視点などを学んで私の対人関係にプラスになりました。

困った時、寂しかった時、嬉しかった時も家族が支えてくれたので私はこの一年間勉強に励むことができました。留学させてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。またブラジル福岡県人会、福岡県国際交流センター、福岡県、家族会の皆様、県費留学生たち、親戚の方々、学校の先生、友達、本当にお世話になりました。心からお礼を申し上げます。おかげでいい思い出がたくさんできました。そして、夢を叶える為のワンステップになったことを感謝します。私は決して忘れません。これから、もっと勉強を頑張って、優れたメイクアップアーティストになりたいと思います。



1 年間の指導を終えて

1、言語（日本語）について

留学生ですが、日常会話での支障はなくコミュニケーション力も持っているので自分から話しかける努力も惜しまず次第に慣れてきました。日本人の他学生が人見知り傾向にありましたので大変だったと思います。実習授業では、提示した内容の実技訓練を行い修得していく内容でしたので問題なかったと思います。説明の時に、意味のわからない言葉については質問を積極的にしてくれましたのでその場で答え、理解してもらえたと思います。座学においては、漢字圏では無いことから、読み方がわからないことも多く困難だったと思います。テキストにはルビをふって理解する努力をしておりました。テストにおいては、担任が教科担当より事前にテストを受け取り、南さん用にルビ入りのテストを作成し対応しておりました。それにより問題を読むことができ、答えることもできたと思います。

2、活動について

本校では、授業以外にオープンキャンパスのスタッフとして接客と技術訓練のため休日に参加するイベントを通年行っており、南さんも何度も参加してくれました。また、メイクアップアーティスト学科は校外のイベントも多く、メイクアップコンテスト、ネイルイベントにも参加し活躍してくれました。学校行事として運動会、ボーリング大会、学園祭などにも参加し、教室以外でも明るく行動的でした。

3、学校生活について

環境の違いに悩んだり、落ち込んだり、ホームシックにかかったり常に戦っていたと思います。常に前向きな学生なのですが、できないことの悔しさは人一倍強く、いろいろ重なって泣き出したこともありました。日本で頑張る、技術を身につけるという強い気持ちが1年間学び続ける原動力になったと思います。出席についても体調不良の欠席はありましたが、まじめに出席しておりました。検定も JNA ネイリスト技能検定3級、パーソナルカリスト3級と取得しております。学年末に IBF 国際メイクアップアーティストライセンスの受験を控えております。南さんなら合格してくれると信じております。

4、最後に

南美陽ソフィアさんの担任ができたこと、共に1年間過ごせたことを嬉しく思っております。



導入合宿
メイクアップコンテスト
救命救急講習
運動会
ボーリング大会
ネイルイベント



ブラジル福岡県人会
行徳 さゆり ミリア

福岡大学スポーツ健康科学部

はじめに

私はブラジル福岡県人会から来ました行徳さゆりミリアです。サンパウロ州モジダスクルーゼス市出身の日系4世です。2012年にサンパウロ連邦大学体育学部を卒業し、その次の年にアルベルト・アインSTEIN・インスチツット・イスラエ・リッタ・デ・エンシノエペスキザで、整体リハビリテーションの大学院を卒業しました。大学院卒業と同時に私は英国ロイヤルバレエの教師の資格も取りました。

そして去年、平成26年度福岡県移住者子弟留学生として福岡へ来ることになりました。私はリハビリの勉強をするため、福岡大学スポーツ健康学部の研究生として入学することができました。

福岡での生活

福岡では「自協学舎」という寮に住んでいてJR香椎駅と西鉄香椎駅、スーパーやお店が近くとても便利なところでした。個人部屋でキッチン、リビングとランドリーは共同でした。最初はみんなと食事をしたりしてとても楽しかったのですが、授業が始まってからそれが少なくなっていきました。寮には外国人だけではなく日本人も住んでいました。私は最初の2ヶ月ぐらいは分からない事ばかりでいつもその人達にいろいろと助けてもらいました。

平日は大学に通っていました。私の大学は寮から1時間半ぐらゐの距離でした。最初は電車で博多駅まで行き、そこからバスで福大前まで行っていました。5月からはバスではなく地下鉄で通い始めました。授業のあとは新体操部の練習の手伝いをしていたので毎日午後の10時ぐらゐに帰っていました。そして週末は買い物をしたり、家族会のイベントに参加したり、新体操の試合にも行ったり、疲れている時は部屋で休んでいました。生活で困ったことは医者に行く時です。初めて行った時は受付には誰もいなくて、ただ紙があって、それに名前を書くのかわからなくてとても違和感がありました。私が日本人の顔をしているので、なにも説明せずに案内されたので少し不安を感じました。

一番感心したのは乗り物です。運転手は丁寧に案内してくれるし、時刻表通りに来るし、お客様の安全を第一に考える「おもてなし」を感じました。

大学

私は福岡大学スポーツ健康科学部で研究生として入学しました。私の担当の先生、柿本真弓先生は体操やダンスの専門で新体操の部長でもあります。柿本先生は大学だけではなくほかの場所で老人や婦人に体操を教えたりしています。私もその授業に参加していました。大学の授業では柿本先生の授業ともう一人の先生、上村育代先生の授業に出席していました。上村先生はダンスの授業担当でとても優しく楽しい先生でした。バイオメカニックスの授業や、レクレーションの授業も出

席しました。柿本先生の授業は「体づくり運動」と言う、音楽や小物を使いながらいろいろな人が楽しめる体操を体験できる授業でした。あと、先生はJSA ボールエクサザイスのインストラクターでありそれも授業中に紹介してくれました。JSA ボールエクサザイスは関節を解す効果があって痛みや柔軟性にも良い結果が見られています。

上村先生のダンスの授業では創作ダンスから伝統的なダンスまでいろいろなダンスを教えていました。私と2人の学生と卒業生1人で先生のお手伝いをしていました。そのなかの1人ゆりかさんは大学3年生でヒップホップがととても上手でEXILE のライブなどで踊ったことがあります。4年生のさやさんは創作ダンスが専門でとても美人です。卒業生のちえさんは高校の先生で元新体操部でした。授業以外は新体操部の練習のお手伝いをしていました。新体操競技の基本の動きはクラシックバレエです。柿本先生は私がブラジルでバレエの先生をしていたのを知って、それをきっかけに見学のみだったのがいつの間にか授業で指導をすることになりました。始めは不安で専門的な言葉がわからない場合が多くありました。でも一緒にいてくれた監督、川崎弥生先生が助けてくださりとても助かりました。最初は慣れるのが大変でしたが、だんだん楽しくなってきました。

感謝

私は今回の留学で勉強だけではなく日本文化や生活、人間関係や私の家族のことを学びました。その機会を与えてくださったブラジル福岡県人会の皆様や、福岡県国際交流センターや、家族会の方達には感謝してもきれないです。皆さんは私達の留学生活が上手くいくように一生懸命サポートしてくれたり、日本でしか体験できないことを計画したりして沢山お世話になりました。例えば田植え、稲刈り、餅つき、浴衣で花火大会、着物でお茶会、母国ではあまり体験できないことに参加できてとても嬉しかったです。大学では先生達が毎日お昼ごはんを作ってくれたり、お土産をくれたり、いろいろな場所にもつれて行ってってくれたりして、とてもありがたいと思っています。学生たちもいろいろ話をしてくれたり、遊びに行ったり、とても仲良くしてくれて別れがづらいです。夏休みと冬休みにいろいろお世話してくれた親戚にも感謝しています。忙しい日々私と弟を泊めてくれいろいろな場所につれて行ってってくれて本当に良かったです。遠く離れている親と祖母たちにも今まで支えてくれて、私は良い家族に恵まれてとても嬉しいです。私がこの一年間学んだことをブラジルでも活かしたいと思っています。最後に一緒に来た8人の留学生と楽しい思い出を作れてとても良かったと思っています。「ありがとう！」



平成26年度 日本(福岡大学 スポーツ科学部)における活動報告書
行徳さゆりミリア

平成26年4月から平成27年3月まで、福岡大学 スポーツ科学部における活動内容を以下に記載します。

- 正課授業
- ・ダンス I (通年) 上村郁代講師のアシスタント
スポーツ科学部1年生男女対象
 - ・体づくり運動 (通年) 柿本真弓のアシスタント
スポーツ科学部1年生男女対象
 - ・バイオメカニクス (前期) 参加
 - ・レクリエーション演習 (後期) 参加
スポーツ科学部3年生対象
 - ・柿本ゼミ 3・4年 (通年) 参加
- 課外活動
- 新体操競技部 (女子) へバレエレッスンの指導
- 社会体育
- 高齢者体操教室アシスタント
- 論文共同研究
- 「高齢者における JSA ボールエクササイズの効果に関する研究—エクササイズ前後の股関節可動域に着目して—」
- 筆頭論文
- 「新体操競技におけるバックルピボットに関する一考察」
- 所 見 :
- 日本語が堪能な行徳さんは、ダンス I (上村郁代講師) のアシスタントとして、ダンスの指導方法を学んだ。また、体づくり運動 I (柿本真弓) のアシスタントとして体づくり運動の指導方法を学んだ。両科目共に学生達にとっても親しまれていた。講師の上村先生にも大変懇意にして頂いた。
- レクリエーション演習では、大学近辺の幼稚園・保育園児と大学生と一緒に「遊ぶ」内容を見学した。「つどいの演習」というテーマでありブラジルでは体験したことのない内容だったようだ。
- ゼミでは、自身の経験やブラジルの様子などを話してもらった。1年が過ぎようとしている今は、まるで以前からの友達のように親しくなった。
- 課外活動の新体操部部員には、専門のバレエ指導をしてもらった。週 4~5 回、熱心な指導であった。

高齢者の体操教室では、アシスタントとして高齢者に対する体操の内容と、接し方を学んだ。参加者の方からは、孫のように可愛がって頂いた。

論文においては、「高齢者における JSA ボールエクササイズの効果に関する研究—エクササイズ前後の股関節可動域に着目して—」のエクササイズ写真モデルとパソコン操作等で協力を得た。また、自身は「新体操競技におけるバックルピボットの」というテーマで作成中である。

全体的には、様々なことによく気が付き、フットワークが良い印象であった。



ブラジル福岡県人会
行徳 政士 ロニー

九州造形短期大学造形芸術学部

はじめに

僕は福岡県移住者子弟留学生の行徳政士ロニーです。ブラジルではグラフィックデザイン学科を卒業して、福岡では九州造形短期大学でアニメーションの勉強をしました。この留学の一番の目標は楽しむことでした。学ぶ楽しさ、見て感じる楽しさ、新たなる出会いの楽しさ、そして他にもいろいろなことを楽しむことでした。僕はその目標を十分達成できたと思います。

日本での新生活

「文化の違い」。僕が福岡に来て日本人やいろいろな外国人とふれあって一番感じたことです。初めての寮生活は楽しいことや難しいことがたくさんありました。それぞれ違う国そして違う生活をしてきたので、いろいろなことを学ぶことができました。意見のぶつかり合いもありましたが、お互いが認め合い始めたことで、良い絆が生まれたなと思いました。日本人との生活は面白いですが、理解しづらい事もありました。日本人の責任感やおもてなしの心、そして伝統文化に対する思いなどは凄いと思いました。日本の人間関係を理解するのが一番の難問でした。考え方などブラジル人との違いが多かったので理解しづらい部分だらけでしたが、少しずつなれていきました。日本に来ていろいろな文化の違いを比べていくのがとても楽しかったです。

大学

九州造形短期大学で一年間お世話になりました。僕はアニメーションを勉強したくてこの大学を希望しましたが、この一年間はそれ以上にいろいろな事を学ぶ事ができ、とても素晴らしい大学生活を送ることができました。この一年間はアニメーション制作が一番の課題でした。前期では運良く授業の課題として RKB 毎日放送の番組「みんなの青春をのぞき見TV Teen! Teen」の「高校生あるある」というコーナーで30秒のアニメーション作品を制作することができました。それで僕達は各自1つのアニメーションを作り、それが実際にテレビで流れました。作品制作はとても大変でしたがすごく楽しかったです。他の生徒たちの作品も見ることができ、RKBのテレビ局にも見学にも行くことができ、とても素晴らしい経験をしました。後期は自分の卒業作品の制作に力を尽くしました。卒業作品はこの留学の経験を生かしたアニメーション作品を作りたいと思いました。そして九州造形短大の設備を出来るだけ生かしたいと思い、ストップモーション（コマ撮りアニメーション）にしました。この制作は本当に大変でした。しかし知らないことばかりでとても楽しかったです。いろいろなことを試すことが出来ていい勉強になりました。

授業はアニメーション・映像関係以外のものにも出席しました。日本伝統文化・茶道の授業では裏千家茶道の心得や茶会のやり方も少し学びました。陶芸は皆と話しながら作品制作を行っていたので、とてもにぎやかで楽しかったです。写真表現は絵作りや作品作りの考え方などが興味深かつ

たです。他にも、RKB 毎日放送のテレビ局で実際の番組収録を見学できました。すごく楽しかったです。

大学ではいろいろなことを学ぶことが出来ましたが、その中で一番良かったと思うのが新しい出会いでした。始めは日本の人間関係に慣れるのが大変でしたが、いろいろな人と知りうことができるとても楽しかったです。友達も出来たし、素晴らしい人たちとも出会えたし、とても楽しい日々を過ごしました。九州造形短期大学で一年間勉強ができて本当に良かったです。

県人会担い手育成招へい事業

「子供たちの可能性」、それが僕が平成26年県人会担い手育成招へい事業で一番感じたことです。いろいろな国の子ども達と引率者、そして福岡県国際交流センターと国際交流局のスタッフと過ごした11日間は凄く楽しかったです。それぞれの母国の生活や文化の話や意見交換などがとても興味深かったです。子ども達のお世話の手伝いは大変でしたが、凄く楽しかったです。子ども達が言葉が通じなくても文化が違っても楽しく一緒に遊んでいるの見て感動しました。また、一緒にこの事業を成功させたいという思いが留学生達同士と福岡県国際交流センターと国際交流局のスタッフとの絆をもっと深くさせて、みんなともっと仲良くなれて本当に良かったです。

花火大会

福岡での夏はとても楽しかったです、その中で一番印象に残ったのが花火大会です。ブラジルでも花火を見る機会がありますが、日本の花火のほうが大きくて綺麗だと思いました。家族会の皆様にいろいろな花火大会やお祭りなどに誘ってくださって本当に感謝しています。花火大会に行く人の多さにはびっくりしました。場所取りの体験もしました。前日の夜中にその手伝いをしてとても面白かったです。皆そうやって場所を確保していることをはじめて知りました。そしてその大変さも少し実感しました。花火大会では花火も綺麗ですが、参加者の浴衣姿もとても綺麗でした。そこで日本の文化を感じました。久留米の花火大会では留学生達と一緒にいった友達の女子たちは着物を着ていたのでとても素敵でした。女子たちが大変そうに浴衣姿で歩いていたのも面白かったです。その日は家族会の皆様が用意してくださったお弁当がすごく美味しかったです。みんなで行った花火大会はとても楽しかったし、あの輝きや響きは今までも忘れられません。

本当にありがとうございました

僕は福岡に留学できて本当に良かったと思います。ここで過ごした日々は一生の思い出になったと思います。日本に来て僕はいろいろなことを見て感じる事ができました。ここで得た知識や経験をこれからも生かしたいと思います。

僕の日本での一番の目標は楽しむことでした。そして僕はその目標を達成できたと思います。日本で過ごした一日一日がとても楽しかったです。

ブラジル福岡県人会、福岡県国際交流センターや福岡県国際交流局、家族会の皆様には心から感謝しています。皆様が僕たち留学生達のお世話をして下さったので本当に楽しい一年を過ごすことができました。この留学で出会った仲間たちは一生忘れません。一年間一緒に過ごした留学生達、大学でできた友達、そして先生達、寮で知り合った人達、お世話になった家族会や福岡県国際交流センターと国際交流局の方々、そしてこの留学で知り合った全員に会えて本当に良かったと思います。

皆様、本当にありがとうございました。



行徳政士ロニー君について

行徳政士ロニー君は、2014年4月から一年間九州造形短期大学の研究生としてアニメーション・映像を中心に研究活動を行いました。ブラジルでも映像を学んだ経験もあり、本学での作品制作、研究をスムーズに進めることができました。また、ブラジルと日本の文化の違いにも戸惑いつつも、それを楽しみながら学ぶ姿には感心させられました。

● 本学で聴講生として履修した授業は下記の通り

- 1) DTV-B 2) 日本伝統文化 3) 陶芸 4) 印刷デザイン
- 5) アニメーション映像メディアデザイン研究
- 6) ストップモーションアニメーション 7) 陶芸 8) 写真表現

アニメーション・映像・メディアデザイン研究では、井上研究室とテレビ局（RKB 毎日放送）と提携し実際のテレビ番組「みんなの青春のぞき見 TV TEEN! TEEN!」で使用するアニメーションを制作しています。高校生の日常をテーマに約30秒のアニメを制作し、企画、作画、アニメーション制作、アフレコ、編集など一連の映像制作の基本を学んでいます。制作した作品は2014年9月に番組内でオンエアされ、本人の名前もエンドロールに登場しました。

また、2月に開催する卒業制作展のための作品制作にも取り組み、粘土（クレイ）を使用したストップモーションアニメーションを本格的に研究しました。一秒間に15コマの撮影をする必要があるこの技法は、計画性と忍耐力を必要としますが、真面目に取り組み、計画通り約6ヶ月の期間で完成させています。自分自身をモデルとしたキャラクターが登場する作品は、留学の様々な経験をテーマにしたクレイアニメーション作品で、そのキャラクターのユーモラスな動きや、撮影、編集技術など完成度も高く、2015年1月27日のプレゼンテーションでは高い評価を得ています。

行徳政士ロニー君の研究する姿勢は、他の学生の模範にもなってくれたと思います。

みんなの青春のぞき見 TV TEEN! TEEN! 用アニメーション作品





卒業研究作品 ストップモーションアニメーション





ブラジル福岡県人会
重 エリッキ 和男

九州大学大学院 人間環境学府

はじめに

子供のころから、いつか日本へ行きたいと思っていました。理由の一つは、漫画とアニメが大好きだったからです。また日系ブラジル人として、ブラジルの友達とは違うと感じていました。だから、多分日本人のほうが合うかもしれないと思いました。年月がたっても、日本へ行きたいという意思は変わらず、その思いはもっと強くなりました。日本文化と社会への興味が生まれ、そのことについて本を読み始めました。日本は世界中で大きく二つの分野で知られます。一つは伝統に関する事で、文化や美術や建築など、素晴らしい遺産があります。もう一つはロボットや新幹線や電気製品など、すごく技術が進んだ国です。私のルーツがその面白い国であることを、誇りに感じました。

建築の勉強を始めた後で、日本の建築スタイルを気に入りました。ブラジルは発展途上国なので、多くの分野はこれから進歩していかなければなりません。建築もそうです。それが私の勉強の目的です。

私の家では、日本語をあまり話しません、「ご飯」や「おはよう」など、単語だけです。そのため、日本語学校に入りました。最初は大変でした、授業中だけしか日本語を話さないの、2年間ぐらい勉強したのに、レベルは低かったです。日本へ行ったら、早く上達するだろうと思いました。

福岡での生活

日本に着いた時に、生活は簡単なこともあれば難しいこともありました。難しく感じる理由のほとんどは日本語があまり分からないことです。ですから、レストランへ行ったり、買い物をしたりするような簡単な事でさえ、私にはチャレンジでした。スーパーでは、野菜の種類や、肉の部位（一回「牛」の漢字を見て、牛肉と思いましたが、実はホルモンでした。ブラジルではホルモンがあまり食べられていません）など、様々なものが違うので、難しい反面、面白いです。漢字を読めなかったら、大変です。洗濯用洗剤と柔軟材を初めて買った時に、どこで探すか分かりませんでした。幸いにも、他の県費留学生たちが一緒にいたので、手伝ってくれました。福岡はとても住みやすいです。何でも便利で、実用的です。乗り物は効率的で、どこでも漢字とローマ字が書いてあります。コンビニで食べ物や雑誌やトイレトペーパーや傘などの生活に必要なものを何でも買えます。さらに、買い物の支払いをしたり、印刷したりすることもできます。24時間365日どこでも利用できます。私は和食が大好きなので、食べ物には簡単に慣れました。ブラジルでよく和食を食べましたが、日本で初めて食べた料理が多いです。福岡市は大きな街なので、和食を食べたくない時、ブラジル料理のレストランもあるし、オプションがたくさんあります。福岡市は名古屋市、大阪市、東京ほど大きくはないですが、福岡にしかない街の良さがあります。例えば、大濠公園のような美しい公園があるし、天神と博多でショッピングができ、エンターテイメントセンターもあるし、野

球の試合とライブを行うためのヤフオク！ドームもあります。そして、博物館、劇場、神社、お寺、山と海、美しい風景、全てがあります。

勉強

日本に留学してから、たくさんのことを学びました。私の専攻だけではなく、文化、歴史、日本人と自分自身の事です。日本へ来る前に、私の留学準備をたくさん手伝ってくださったブラジル福岡県人会の人は私に質問をしました。「このプログラムについて、何が一番大事な事ですか？」と。その時それはに答えるのが難しく、以前から自分自身にも問いかけていました。何回も答えましたが、違うと言われました。実は、一番大事なのは友達を作り、日本人の考え方を分かるようになる事です。そして、ブラジルに帰ったら、日本で習得した知識と経験を相手と分かち合う事だと言われました。日本人とブラジル人は非常に異なります。日系人である私でさえ、始めは日本人の挙動が良く分かりませんでした。今も100%を分かるわけではありませんが、日本人にちかい感覚で見ることが少しはできると思います。このような知識を本当に分かるためには、日本に住まなければなりません。日常生活では学ぶ機会がたくさんあります。日本語と文化と歴史も勉強できます。国際交流センターと家族会の多くのイベントでもたくさんのことを学びました。最初にどのように振る舞うべきか分からなかったのが、緊張しました。しかし、国際交流センターと家族会の人達はいつもたくさんお世話をして下さり親切で、県費留学生たちが福岡で快適な滞在ができるかを、心配してくれました。寛大さと優しさは日本人の美点で、私もこれからそれを見習いたいと思います。

建築の勉強について、日本へ来ることができたことは非常に自分の為になったと思います。私の研究目的は日本の施工方法、特にプレハブ工法を学ぶことです。九州大学の担当者の小山智幸先生と初めに研究についてお話しをした時に、先生は僕が興味を持っていたプレハブについての知識がないけれど、他の施工方法であるプレカットなら、知識があると言われました。僕の持っている建築の知識に良いインスピレーションを与えてくれました。前は、プレカットのことを聞いたことがありませんでした。プレカットというのは木造で家を作る工法で、工場で家の様々な部分を綺麗に切り、現場でその部分を組み立てる施工方法です。工場で機械が家の部分を切るのので、速く、効率的な施工方法です。私は木造住宅と日本の住宅のスタイルが好きで、今はプレハブよりプレカットのほうが興味があります。ブラジルに帰ったら、その勉強を続け、うまくいけばいつかブラジルで日本のプレカットのような施工方法を作りたいと思います。

最後に

今までの9ヶ月間を思い出すと、本当に素晴らしい1年を過ごせたと感じ、感動します。時間が早く過ぎましたが、同時に濃い時間でしたので、実際より長く感じます。思い出がたくさんあるので、全て思い出するために、時間がかかります。私は自分自身成長したと感じています。そして、私は100%ブラジル人じゃないですが、日本人でもないです。私は誇らしいことに、両方の要素を合わせもっているのので、それぞれの良いところを保ち続けていきたいと思っています。この機会をいただき、本当に感謝しています。日本へ来る夢が叶いました。僕の留学に関わってくださった人々に心からありがとうございますと伝えたいと思います。日本での思い出を死ぬまで大切に守ります。



九州大学大学院 人間環境学府 小山
(重担当教員)

重エリッキ和男君は九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻の研究生として昨年4月から私の担当する建築材料学研究室に在籍しています。日本のプレハブ住宅について研究し、帰国後に母国ブラジルで住宅生産の工業化を進めるための基礎データとすることが来日の主要な目的の一つであると理解しています。日本では現在、工場において機械が図面通りの部材を自動加工し、現場ではこれを組み立てるだけの、いわゆるプレカット部材を用いた在来軸組住宅が主流であり、従来よりも大幅な省力化と精度向上が図られ、低コスト化が実現されています。プレハブとは若干異なるものの、住宅生産の工業化の一手段として有効であり、より設計の自由度の高いものとなっています。重君はこれに着目し、プレカット工場や、そこで加工された部材を用いた住宅の建築現場の見学、関係者からのヒアリング等を通じて多くを習得し、研究の成果を得ることができたものと判断します。快活で明朗な重君は、日本語の上達も早く、日本人的な感覚を有するため研究室でも他の学生と容易に協調することが出来ました。英語によるコミュニケーション能力も高く、学内外の留学生との交流も活発に行っていたようです。また、非常に積極的で、本研究室における研究テーマの一つであるコンクリートの施工実験でも、日本の過酷な暑中環境下でのコンクリート打込みや種々の測定を担当してくれました。本学および日本における重君のこの一年は、本人の将来にとって意義あるものになったと思っています。以前同じ制度で日系留学生を受け入れたときにも同様の感想を持ちましたが、一世紀以上前に先祖が日本から外国に移住し、その後初めて父祖の国を訪れる子弟にとって、本制度は極めて貴重で有意義なものとなっており、国際交流センターのサポートも非常にきめ細かいものと感じました。是非この制度を継続し、今後も多くの日系留学生に来日の機会を提供していかれることを期待します。末尾ながら重君の帰国後のますますのご活躍を祈念します。



ペルー福岡クラブ
タケシタ クリスティ

九州産業大学 芸術学部

この一年の留学生について

はじめに

はじめに、福岡県国際交流センターの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。私に与えてくださったチャンスは素晴らしいものでした。この一年は本当に早くすぎてしまいました。素晴らしい思い出で一杯です。

小さな時から日本のことは知っていました。私の母の祖父母は日本で生まれ育ちましたので、小さな時から日本語で私にお話して、歌も教えてくれました。祖父は私がいつか日本に行って福岡の親戚に会えることをいつも願っていました。早くに亡くなりましたが、私はいつか日本へ行こうと思っていました。

日本に来る前に、日本語を上手に話すことが出来ないのに、うまく生活していけるか少し心配でした。福岡に着いた時すごくいい所だと思いました。その前に心配していたことも忘れていました。日本での経験は想像以上でした。日本の親戚に会えた事は特に素晴らしかったです。祖父との約束を果たすことが出来てとてもうれしいです。

学校

九州産業大学で写真の勉強をしています。大学の第一印象は「とても大きくてきれい！」でした。学校の先生は百瀬俊哉先生です。いつも親切でとても優しく面白い人です。百瀬先生は私が日本語があまり分からなときは、いつも落ち着いて丁寧に教えてくれます。学校の最初の日、どうしていいか分からなかったのが少し心配でした。でも皆が私を優しく手伝ってくれました。科目で一番好きなのは、カラー写真と白黒写真でした。両方フィルムカメラを使います。昔風の印刷も出来ました。デジタルカメラやフォトショップの授業もありました。二学期までは百瀬先生のゼミを受けました。そのクラスで写真の展示会が二回ありましたが、ペルーでは写真の勉強をしていませんでしたので少し心配でした。けれどよく出来たので良かったと思っています。

写真のクラスの他に、大学では日本語の授業も受けました。一つは文法と単語、もう一つは会話と文化でした。会話と文化のクラスでアサヒビール工場に行ったり日本の年賀状を作りました。陶芸の授業も受けました。これはとても興味深いものでした。お茶碗や小さいお皿も作りました。そのほか、テニスサークルに行き、英語のコミュニケーショングループにも参加しました。色々な行事に行くことができたのは大学の交流センターのおかげでした。そのおかげでたくさんの人たちに出会うことが出来ました。皆一緒にバーベキューパーティーや熊本の牧場や熊本城にも行くことが出来ました。一生忘れないとても楽しい経験は九州産業大学で AKB48 の恋するフォーチュンクッキーの大学バージョンを踊ったことです。そのビデオはとても楽しいです。

行事

1 年間で国際交流センターと家族会の色々な行事に参加して日本文化をたくさん知ることが出来ました。最初のホームステイでは日本の歴史的な家で畳で寝る経験が出来、初めて温泉に入りました。稲刈り、ぶどう狩り、餅つきなども体験することが出来ました。夏には色いろな花火大会に行きました。香椎の花火大会では浴衣を着て行くことが出来ました。一番印象に残った行事は初めて着物を着て茶道の体験をしたことです。

県人会担い手育成招へい事業の12日間でさらに日本文化を知ることが出来ました。例えば博多

祇園山笠、梅ヶ枝餅作り、流しそうめん、小学校体験など。子ども達と同じく私たち県費留学生も色々な体験をすることが出来て、いい経験が出来ました。

日本の生活

日本に来る前は日本の生活のことを心配していました。私はいつも外国で一人で住むことを考えていたので早く慣れました。福岡で2ヶ月過ぎた時、ここは住むのにとてもいい場所だと思いました。食べ物、福岡の人、そして環境はとても素敵です。福岡に到着した時から日本人たちはとても親切で、いつも困っている人たちを手伝うのだなと思いました。

日本に来てから私自身変わったと思います。自分でもこんなことが出来るとは信じられませんでした。旅行が大好きで日本は危なくないので、いつも夢に見ていた一人旅も出来ました。今まで行ったところは京都、大阪、奈良、神戸、名古屋、静岡、東京、横浜、広島、長崎、宮崎、熊本、佐賀と壱岐です。各町の歴史や文化が違うので本当に素晴らしいなと思っています。

日本に着いた時から、今までに経験したことがないことがたくさんありました。ペルーとは違うこともたくさんありました。例えば電車のなかでは携帯電話で話せない、運転手さんは何をしているかを説明します。皆電車に乗る際は静かに列に並ぶこと、部屋のなかでは靴を脱ぐこと、いらっしやいませを言われることなど。でも早く慣れました。

とても印象的なことは日本とアメリカの親戚と会えたことでした。皆違う国で育ちましたが同じルーツを持っているのでとても嬉しかったです。母の従兄弟たちにも会えて、楽しかったです。そして、遠い親戚に初めてあえました。これからいつもメールのやり取りをすること約束しました。

最後に

ペルーに帰ったらもっと福岡県人会を手伝ってこの素晴らしいプログラムのことをお話します。ペルーの若い子供たちはあまり日本のことに興味がありません。私もそうでしたが福岡に来てからそれはまったく変わりました。ルーツは大切なものです。私に与えられたこの素晴らしい経験を他の人たちに教えてあげたいと思っています。

福岡県国際交流センター、ペルー福岡クラブ、家族会のひとたちとこのプログラムの人たちに感謝の気持ちで一杯です。このチャンスをくださってどうもありがとうございました。私にとってことばで表せないほど素晴らしい一年でした。一生忘れることはないでしょう。本当にどうもありがとうございました。



九州産業大学芸術学部 教授 百瀬 俊哉
(タケシタ担当教員)

竹下クリスティさんは以前大学でデザインを専攻していたこともあり、自己の感性を視覚化する写真というメディアに積極的に興味を持ち学習していました。前学期は基礎的な撮影技術からスタジオ撮影、画像処理からプリントまでの一連の授業を受講し、さまざまな実習作業を通じて幅広く写真と関っていきました。2014年7月には研究室主催の写真展で志賀島をテーマに撮影した「とある一日」を福岡市美術館にて展示しました。彼女は写真を撮るにあたり、福岡での自然と人間の営みを目の当たりにした際、その光景から美しさや平和、自由や恐怖などさまざまな感情が出てきたそうです。そのような中で日常的な志賀島の自然と人々の姿をさまざまな角度から向き合うことで、自身が感じたことを素直に写真にすることに挑戦していました。後学期の授業では撮影後のプリント作業における細かいディテールのコントロールを身につけ、2015年1月には福岡県立美術館において「心の奥」という作品を展示しました。日本における社会生活を通して感じたさまざまな思いを、自身の心象風景として提示することに成功しました。この1年間写真を学ぶことにより被写体を正確に捉える記録としての役割だけでなく、レンズという眼を通じてシャッターを切ることにより、自分自身の内面を視覚化することにも興味を持ったようです。

くわえて年間を通じて積極的にゼミナール生とのコミュニケーションをとっていたことから、日本語の能力も格段に進歩しており、帰国後の活躍も楽しみな学生です。本当に1年間お疲れ様でした。





コロンビア福岡県人会
エルナンデス 黒木 なつみ バネッサ

折尾愛真短期大学 経済学部

はじめに

私は日系三世のハーフです。私はコロンビアのカリにある、サンヌエナベントウラ大学でマーケティングとマネジメントの勉強をして卒業しました。日本に来る前、企業に勤めてマーケティングの部署に入りました。本当に、マーケティングがすごく好きになりました。それで日本のマーケティングを勉強して、自分のレベルを上げたいと思いました。日本で学んだものが多いです。大学や、日本人から、県費留学生からや、日本での生活から学んだことがたくさんあります。留学は私にとってすごくいいチャレンジだったと思います。家から離れることが今までなくて、違う国に住むことは考えられませんでした。日本での文化の違い、食べ物の違い、話し方やファッションが全て私にとって新しいものでワクワクしました。日本に来る留学生の人生で、とっても良い経験であると思います。

福岡での生活

来る前一人になる事をすごく恐れていましたが、日本に来たら何もかもが新しく慣れるのは思っていたより早かったです。私は日本に来て色んな発見ができたことにすごく感謝しています。入国して成田空港に着いた時に、何年も会っていなかった親戚が日本中から集まってくれていたのも、すごく幸せな気持ちになりました。その後福岡に出発して寂しい気持ちになってしまいましたが、色んな国から来ている県費留学生がいて、その中でも南米の人も居たのでほっとしました、話せる人が居ることで一安心して、その日にみんなで桜の木を見にいきました。桜の木が町をデコレーションしているように感じて、とても綺麗だと思いました。国や家族から離れた事を忘れてしまいそうぐらい、幸せな気持ちでした。

福岡はコロンビアの町と違って、とても清潔な町です。すごく安全で全てが違う感じです。もちろんその違いのなかでも一番の違いが料理の面です。また日本人独特の礼儀の正しさに圧倒されました。他に楽しんでいるのは季節の移り変わりです。自分の国ではこんなに季節が変わることがありません。今が私にとって初めての冬といえるぐらい寒い毎日です。こんなに寒いのは人生で初めてです！夏は温くて自分の国に居る感じでした。

忘れられない夏の思い出もたくさんできました。6月のワールドカップの時はスターになった気持ちになりました。その何日間かだけでしたが、試合でコロンビアがテレビに出るたびに色んなテレビ局から私に取材の依頼があり、電話や撮影などで色んなコメントを求められました。7月になりますと県人会担い手育成招へいプログラムに参加させていただきました。8月には旅に出ました。何年も会っていなかった親戚のところや、友達と一緒に親戚の家に泊まったり、大阪、神戸、奈良、京都、名古屋、静岡と富士山にも行きました。とても長い連休の中で日本の色んな所を見て良かったです。

勉強について

私は折尾愛真短期大学で、石松健夫男先生に教えてもらっています。短期大学は北九州の方にあるキリスト教の大学です。学校では毎朝、授業の前の一時間はキリスト教の歌を合唱します。最初それを体験した時は、私はカトリックですが驚いた事を覚えています。いつもは他の学生たちと他のアジアの国の事や、たくさんの事を学んでいます。最初の学期は日本語の授業だけの毎日でした。今まで身につけた語学力を活かしながら学ぶための一番いい方法を考えながら勉強しています。日本語を勉強していると幸せな気持ちになります。なぜなら自分の親戚や日本人の友達と話ができるようになる楽しみがあるからです。後期にはやっとマーケティングの勉強を始めることができました。日本語での授業でしたが、日本にある色いろなマーケティングの戦略に圧倒されました。文化によってマーケティングの戦略がこんなにも違い、面白いものだったのかと改めて好きになりました。コンビニエンスストアやテレビ、ホームページにもかなりの違いがありましてすごく良い学習になっています。9月から自分で日本とコロンビアを結ぶ新しいプロジェクトにも取り組んでいます。

最後に

まず、たくさんの人に感謝の気持ちを伝えたいです。コロンビア福岡県人会、福岡県国際交流センター、みなさんのおかげでこんなに素晴らしい経験をする事ができました。このような機会を与えてくれて本当にありがとうございます。そして、家族会の方々。みなさんはいつも私たちに貴重な経験をあたえてくれました。日本文化を紹介してくれたり、初体験だった着物を経験できたり、なにより田植えから精米にするまでの過程を、すべて経験できたことは特別なことでした。家族会の方々のおかげで、日本の良さをもっと知ることができました。ありがとうございました。そして、とても親切にしてくださった身元保証人の田中さんをはじめ、学校の先生、いつも同じ時間を過ごした県費留学の仲間にも感謝の気持ちでいっぱいです。

コロンビアに帰ったら、私の日本での経験をより多くの人に伝えたいと考えています。また、これからもこのように私が経験した素晴らしい機会が次の世代へ続くことをねがっています。



折尾愛真短期大学経済学部 教授 石松 健男
(黒木担当教員)

(黒木なつみさん研修報告)

黒木なつみさんは温和な性格だが好奇心が強く、また内面には強い意志も持っているように思える。日本に関する興味が大きく日本の文化や日本語に関し勉強するとともに、母国では食品会社のマーケティング担当者として活躍していることからマーケティング・経営学・商品企画などについての講座も受講を希望した。

この1月末で2014年4月から約10カ月にわたった研修を修了した。研修は専門科目の講義内容を理解するための日本語基礎能力を有していることを前提として始める計画であった。しかし最初に行った学内の日本語能力試験の結果で黒木さんの能力では講義内容の理解に手間取るかもしれないことを考慮し本人と相談の上、前期は日本語能力のレベルアップを目的に本学別科コースの日本語講座を主体に受講科目を選定し、後期は本科コースのマーケティング・商品企画などの専門科目を主体に選定した。結果として日本語の能力は当初に比べてかなり上達してきたと評価する。ただ本人自身が希望したレベルまで到達できたかどうかについては多少の不満が残ったのではないかと思われる。前・後期とも本人の交流行事への参加、日常の生活拠点が本学から遠かったこと、体調不良などの理由からそれぞれの科目全15回の講義を継続して受講することができなかったことを残念に思う。しかし、受講した科目での講師の評価は高く、例えば商品企画開発講座の日本語によるプレゼンテーションも説明内容がよくまとまっていた。本人の話では今回一旦帰国後再来日を予定し、また母国健康食品の日本での輸入販売事業を友人と計画中と聞いているが本学で学んだ内容は今後もいろいろな場面で役に立つと思われる。真面目で明るい性格と粘り強さでコロンビアと日本の友好のために活躍してほしいと願いまた期待をしている。



在ボリビア福岡県人会
川波 直美

九州観光専門学校カフェ&スイーツ科

学校

ボリビアから来ました、平成 26 年度福岡県費移住者子弟留学生の川波直美です。九州観光専門学校のカフェ&スイーツ学科で勉強をしています。私が住んでいるサンファン日本人移住地では日本の料理や和菓子はありますが洋菓子はないのでこの機会に学びたいと思いました。

学校に行き始めた時は不安でした。クラスメイトは年下なので仲良くやって行けるのか心配でした。私は人見知りなのでなかなか自分から話しかけることが出来ませんでした。会話をすることが少なかったため学校に行っても楽しいとは思っていませんでした。でも時間がたつにつれ皆と話せるようになり、学校生活も楽しくなりました。今では学校以外でも食事、買い物やカラオケに行く仲になりました。

学校でお菓子を作る授業の他にもサービス接遇、漢字、センスアップなどの勉強もあります。実習の授業は、はじめに先生が作って見本を見せてくれて、その後私たちが作ります。それぞれ先生と同じ様に作っているつもりですが、お菓子は焼き色や味がいろいろ違って出来上がります。ほとんどの授業は漢字が沢山あるので意味がわからない時や漢字が読めない時には友達が教えてくれて、私ができるまで説明をしてくれます。皆とても優しいです。学校ではいろいろな行事も行われます。体育祭、葡萄狩り、専門学校大会、文化祭など、全校生徒が参加出来る行事です。クリスマスには製菓専攻の皆で作ったケーキを初めて販売しました。販売は家族向けだけのためでしたが、それでもパティシエになった気持ちで嬉しかったです。お正月用の洋菓子も作りました。このレシピは全部一年生皆で考えて完成させたものです。

日本での生活

日本はとても住みやすい国だと思います。南米と違ってすごく安全な国です。時間もきちんと守られていいです。困った時には周りの人が親切に助けてくれます。とてもありがたいです。時差ボケには少し困りました。生活でびっくりしたことは人間関係です。日本人はシャイだと思いました。温泉の初体験にもびっくりしました。ボリビアでは温泉がないので温泉に入るまですごく恥ずかしかったです。でも一回お湯につかると疲れが取れる感じでもっとも気持ちがいいです。

日本でもボリビアでも季節は春夏秋冬がありますが、ボリビアでは冬以外は一年中ほぼ暑いので、季節の変わり目をあまり感じません。日本では季節ごとに違った楽しみがあります。春には桜を見ることが出来ました。夏には海水浴と花火大会、秋には色とりどりの紅葉、冬には初めての雪とたまらない寒さ、何もかも初めてだったので感動と同時にテンションも上がりました。

行事

いろいろな行事に参加して日本文化をもっと知ることが出来ました。竹の子ほり、家族会のホームステイ、田植え、浴衣と着物の体験、茶道、餅つきなどの行事の中で今まで経験したことがなか

った行事は茶道の体験です。自分で作って飲むお茶はインスタントよりも美味しかったです。着物を着て茶道を体験することはめったにないので、体験出来てとても良かったです。県人会担い手育成招へい行事では日本の小学校を見学し、日本の学校生活がどのように行われているのかを体験出来ました。そして、日本の小学生に南米の国の生活がどんな感じなのか少しですが伝えることが出来ました。子供達は言葉が通じなくても、お互い楽しく遊んで、伝えたいことを一生懸命伝えていました。

特別病院生活

私は、9月に学校のバレーボール大会で怪我をしました。怪我に対しては「なんてついてないんだ」と思いました、でもそれなりに良いこともありました。日本の病院での入院生活を体験しました。一ヶ月入院をして沢山の幅広い友達を作ることが出来ました。リハビリセンターの先生や看護婦さん、年上の人ばかりに囲まれていましたが毎日いろいろな話を聞いたり、ボリビアのことを知らない人が多かったので知ってもらえるようにボリビアのことを話したりして楽しい入院生活を送ることが出来ました。おじいちゃんやおばあちゃんとオセロをして遊びました。皆すごく可愛がってくれて、おかげで寂しい思いをすることがありませんでした。退院した後も何人かのおじさんやおばさんと連絡をまだとっています。ある方には日本のお父さんお母さんと思ってくれたら嬉しいなどとも言われたことには感動しました。私の方がもっと嬉しかったです。

最後に

このような素晴らしい機会を与えてくれた福岡県人会の皆様、県費留学生の面倒を見てくれた国際交流センターの皆様、家族会の皆様、この一年間本当にありがとうございました、心から感謝しております。これからも特に若い人たちが県人会に興味をもって、日本とボリビアの架け橋になれるよう頑張りたいと思っています。そして、この素晴らしい県費留学生の一年間のことをもっと多くの人に知ってもらいたいです。ボリビアに戻ったら専門学校で教わったことを活かしたいと思っています。お店は開けなくても自宅で注文を受けて販売をして、沢山の人が作ったお菓子を食べてもらいたいです。



九州観光専門学校 カフェ&スイーツ科 (川波担当教員)

国際交流センターからの留学生の受け入れは今回で二度目になります。
今回も、不安な点が全くなかったわけではありませんが、前回の経験がありましたのでスムーズに受け入れができたのではないかと思います。

川波さんも入学当初は緊張と不安がある様でしたが、持ち前の明るさですぐに日本人の学生と打ち解け日本語でのコミュニケーションも問題なく思えました。
こちらの質問には目を見てしっかりと答え、分からないことはきちんと質問ができ、日本人の学生にはないものを持っている印象も受けました。

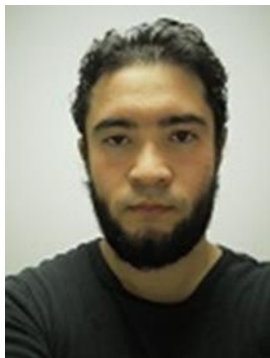
実習授業では、様々な製菓専門用語が出てくる為、本人も戸惑う点があったのではないかと思います。

しかし、川波さんは明るく、勤勉なことからしっかりとノートに書きとめ苦手なことは放課後に時間を作って繰り返し練習を行っておりました。

ブライダル学科のイベントで本物の結婚式をプロデュースするものがあり、本学科ではウェディングケーキを制作するという点で携わらせていただいております。

川波さんは、この際にも積極的に制作に参加し、遅くまで学校に居残り取り組みました。その結果、新郎新婦に大変喜んでいただき、川波さんをはじめ学生も自分たちが制作したケーキでお客様を喜ばせることができた達成感と充実感に溢れておりました。

この1年間で川波さんは、製菓の基本的な知識と技術が身に付いたのではないかと思います。
短い期間ではありましたが、帰国してからやりたいことははっきりとしているようですので学んだことを生かし、さらに腕を磨き活躍してくれることを期待しております。



メキシコ福岡県人会
棚町 ヘラルド

九州大学大学院 地球社会統合学府

今年の福岡県移住者子弟留学生として福岡へ留学できたおかげで、私は良い体験ができています。昔から日本に来たかったのですが、日本語や日本の生活と関わりがあまりなかったのて来る前は少し心配でした。しかし、幸い来日当初から福岡県国際交流センターの方や県費留学生、身元保証人や様々な人にサポートを頂き、すぐに日本の生活に慣れました。日本は全体的に安全で、便利さや人びとの優しさからか、住みやすい所だということに驚きました。

留学中は国際交流センターのイベントにたくさん参加したので学ぶことも沢山ありました。又7月の県人会担い手育成招へい事業で福岡県内の観光、料理、見学等の文化経験をしながら、いろいろな国の県人会の大人と子供と友情を育みました。家族会の方にホームステイ、花火大会、稲刈り、餅つきのような活動に誘って頂いたのは貴重な体験でした。家庭的な雰囲気の中かで実際の日本の日常生活及び他の外国人があまり知らないことを経験することができました。

大学では、自分の希望テーマを良く研究できました。私の興味があるテーマ、「近代的な日本の物理学とそれに関する技術の教育の歴史」を九州大学大学院地球社会統合科学府で学ぶことができたのは良かったと思います。ホール・アンドリュウ先生に担当して頂きました。最初は研究テーマを英語で勉強しながら、日本語でも勉強していきました。少しずつ日本語の授業を受けたり史料を読んだりできるようになりました。メキシコでは、今回の自分のテーマがほとんど研究されていません。また、私は物理学科を卒業して博士号をとったので、専門はメキシコの物理学の歴史になり、日本通史に関する知識が足りませんでした。なので今年は基本的に授業で日本の歴史の基礎を学びながら、私のテーマについての研究は、簡単な概観までにとどまりました。日本通史の授業では、文学やジェンダー研究、政治などの話題も述べられます。今勉強している時代は、興味深い日本の移住者についても少し勉強しています。このおかげで今住んでいる日本への理解と観察力が高まっていると思います。

研究で発見したのは、日本の科学と技術の成功の原因は独特だということです。16世紀に欧州の人が日本に着いてから西洋の知識を日本人に伝えた後で、幕府の鎖国によって外国の影響が小さくなりました。その間に欧米で科学がかなり進歩し、幕末はお雇い外国人を招へいたため、日本人が新たな知識を速く学ぶことができました。そこから日本の技術が発展しはじめました。明治時代にかけてその過程が加速されると、日本の科学と技術は世界に通用するようになり、日本国内での教育が強化され始めました。特に旧帝国大学では新しい教育方法や物理学が大部分に含まれたカリキュラムを作成し、政府や産業界、陸海軍などに勤めた人が講師を務めました。メキシコの過程と比べると類似点がありますが、日本はメキシコより50年ぐらい先行していたようです。このテーマは本当に面白いです。今までに日本人の専門家がこの研究をしている人は少ないです。将来もこの勉強をし続けたいです。

私は九州大学が大好きです。旧帝国大学の時からの重要性が教員・設備・機構に表れています。学生の目標や将来への可能性が高いと思います。例えば自分の場合は研究に使用する史料が多く、教授はかなり有能です。沢山の国やいろいろな専攻の学生がいるので、そのような様々な考え方や知識を互いに知ることができ、勉強のレベルも高くなります。加えて大学に関する課外活動のおかげで、私の学生生活がもっと楽しくなりました。講演、旅行、祭り、パーティー等もありました。特にサークルでは、体系的に日本文化を学ぶチャンスもあります。私が参加しているのは邦楽部です。部員は琴と三味線と尺八と雅楽の楽器をします。部員の皆さんはほとんど日本人ですが、4月から入部することができました。吹き方はきつくて、尺八譜を読むのは大変ですが本当に面白いです。12月に演奏会が行われたときは、3ヶ月くらいの練習の成果を出すことができました。友達と一緒に音楽を演奏する喜や、その準備は面白かったです。部活というと部員は完全にこのようなイベントの責任を持つことです。各用事の管理や指示、いろいろな準備の方法もかなり自分達で決めました。そのおかげで演奏会は成功だったと思います。日本の学生の生活について学びながら、日本の伝統的な音楽を学んで楽しむことができました。

私が留学を楽しめているのは、いい友達がいるからです。日本人も県費留学生も大学生も色々な国の人がいます。旅行、パーティー、日常生活等で様々な思い出ができました。また九州と本州に旅行して大都会、田舎等で春夏秋冬の自然や文化を感じる場所へ行きました。

残念ながら日本に来る前に日本語をあまり習っていませんでした。それで時々、自分の体験において言葉による制限がありました。しかし、まとめとして、私は今までお話しした様々な体験と、家族の故郷と繋がりを強めながら楽しい1年間過ごして、確かに未来に繋がるような体験をできたということです。平成26年度福岡県移住者子弟留学生の機会を与えて頂き感謝の意を表したいと思います。



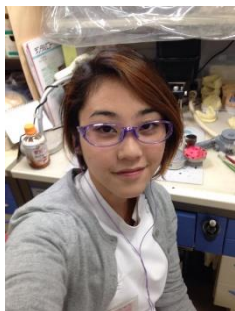
九州大学大学院地球社会統合学府 准教授 ホール・アンドリュー
(棚町担当教員)

私は2014年4月から研究生 Gerardo Tanamachi (棚町ゲラルド)の指導教員をしました。ゲラルドは日本近代史、特に明治時代の高等教育の科学教育の発展、また物理学教育と工業の関係を研究しました。

ゲラルドの目標、努力、そして成果に感銘を受けました。彼は文献レビューを行って、英語、また日本語のかなりの数を見つけて、「フィールドの状態」の史料論文は大局的にそれらの作品を置きました。明治時代の高等教育発展の問題の理解が深くなりました。彼の英語能力はとても高く、日本語の読書能力も高くなりました。さらなる研究が必要なものの領域が明らかになって、彼はよく大学院生としてその研究を行うように配置されています。

彼はまた、私の日本近代史大学院ゼミに参加し、量が多い読み物を巧みに分析し、解釈した。彼はまた、日本の語学コースを取って、日本語が上手になりました。日本語の歴史ゼミに参加して、発表できるレベルに達しました。

ゲラルドは他の院生と仲良く協力しました。学問的に、また精神的にゲラルドはこの一年間の研究で日本の大学院に進学する準備が出来たと思います。



アルゼンチン福岡県人会
津留 アナ パウラ

九州大学大学院歯学府

はじめに

私はアルゼンチンのラプラタ市出身の日系三世です。私は、歯科技工士学院 Dr Raul Duyos を、2011年に卒業しました。子供の頃から日本を知りたいと思っていました。私の祖父母はいつも日本とその伝統について話してくれました。それで私はいつも私の起源ルーツについてもっと知りたくなりました。祖父母が生まれた村や人々についてです。先祖なしでは、今回県費留学生として日本へ来ることもなかったと思います。この機会を与えてくださった福岡県国際交流センター、アルゼンチン福岡県人会、家族会に感謝しています。皆さんの協力なしではが私の夢をかなえることは出来ませんでした。今回日本の進歩したテクノロジー、技術、世界的にみとめられている日本人の繊細な手作業を学ぶことができました。

毎日の生活

初めての福岡での一人暮らし、アルゼンチンでは家族に守られて暮らしていましたので、私にとってはとても良い経験でした。一人での生活で、買い物、炊事洗濯、新しい大学に通い日本語での生活、病院での患者さんとのふれ合い、そして大学での先生の事業のお手伝い、素晴らしい経験をさせていただきました。福岡県の方たちは私に大変優しくしてくれました。困ったときには色々と助けてもらいました。

福岡の町はすごく活気にあふれていて魅力的な町で色いろなアクティビティーに富んでいて、スポーツ、おいしいケーキ屋さん、レストラン、伝統的なもの、それらを体験することができる町でした。

勉強のこと

古谷野教授、九州大学歯学部インプラントの先生方には大変お世話になりました。お礼をもうしあげたいと思います。最初は私自身も、たどたどしい日本語ですごく緊張した日々でした。皆様にもご迷惑をおかけしたと思います。でも皆様は私を温かく迎えてくださり教えてくださいました。だんだんと私の緊張がほぐれていくのを感じました。大好きになった日本を離れたくなくなりました。

私の留学生活は毎日大学に行って、病院で先生のお手伝いをし、患者さんの病状のケースを見ることでした。歯科技工士さんと一緒に患者さんの義歯を作る経験もさせてもらえました。歯科医と技工士が協力して患者さんを見るのは、私にとって新しい経験でした。先生たちは私のことを信用して下さり、仕事を任されたときは幸せを感じました。教えていただいた知識すべてを、患者さんを通じて活かすことも出来ました。日本とアルゼンチンの違いを知ること出来ました。私の職業に役立つ新しい知識を得ました。今後この知識を活かしていきたいと思います。

イベントのこと

国際交流センターと家族会の方々には大変感謝しています。皆さんのおかげで日本文化にふれることが出来ました。日本料理を食べたり、温泉を経験し、竹の子掘り、ブドウ狩り、ハイキング、着物を着てのお茶会、久留米、糸島へ旅行などをしました。私が一番印象に残ったのが田植えと稲刈りです。大変な作業でしたが良い経験をしました。イベントとして一番気に入ったのが県人会担い手育成招へいプログラムでした。違う国々に住んでいる皆さんとの交流で情報交換することが出来ました。そして一緒に福岡県を回ったり、楽しく遊んだりすることが出来ました。博多祇園山笠、皿倉山、太宰府天満宮、ヤフオク！ドームなど。この交流でほかの国を知りたいと言う気持ちになりました。私自身で回ったところでは相撲観戦、野球観戦、アクロスでオーケストラのコンサート、

九州、熊本県、佐賀県、北九州、残りの時間でもっとほかのところに行けたらと思っています。

旅行のこと

夏休みには何人かの県費留学生たちと色いろなところを旅行しました。鹿児島で先生たちと学会の懇親会へ参加し、知覧忍者村、海、砂風呂、温泉、しゃぶしゃぶを食べたりと、すてきな体験もしました。

県費留学生たちとのバスや電車を使っての旅行では、日本の交通機関の便利さにびっくりしました。おかげで色々なところを回ることができました。行ったところは、広島(博物館では改めて戦争の恐ろしさを実感できました)、松江、出雲(岩見銀山、出雲大社)、大阪(ユニバーサルスタジオ)、奈良、名古屋のプラネタリウム、静岡からの富士山見学。これだけのところを自分たちだけで周れたことに感激しています。

冬休みには妹と再会しました。大阪で待ち合わせをしました。ユニバーサルスタジオジャパンに行ったり、K-POP を聞きに行ったり(観客のお行儀のよさにびっくり)、京都と東京ではアルゼンチンに留学していた日本人の学生と再会しました。東京では、スカイツリー、渋谷、原宿の竹下通り、二人で周って楽しい時間をすごしました。富士山の山中湖、横浜中華街にも行きました。

今後について

帰国したら留学前の私のいつもの生活に戻りますが、みなさんとお会い出来なくなると思うと寂しさと悲しみを感じると思います。そして今後アルゼンチン福岡県人会のお手伝いや私の後輩たちへのアドバイスに力を入れていきたいと思っています。日本の大学で学生に教える経験をしたことで、ほかの人へ何かを教えることがどんなに素晴らしいかを知ることができました。できれば今後は教えることもしていきたいです。素晴らしい方々と知り合うことができ、かわいがっていただきました。将来もう一度再会したいです。



津留アナパウラさん 活動報告

パウラさんは九州大学病院の歯科部門の義歯補綴科の研究生として、2014年4月より当科に所属しております。彼女は歯科技工士として彼女の出身国であるアルゼンチンでも活躍しているようですが、過去に彼女の父親が当科に同じく歯科技工士の研究生として所属したことがあり、その縁もあって当科で彼女を迎えることとなりました。

当科で診察をする患者は、歯の一部やすべてを失ったのちに金属やセラミックを用いた歯冠補綴治療、いわゆる入れ歯を用いた可撤性義歯治療、歯を失った部分にチタン製の人工歯根を用いたインプラント治療、悪性腫瘍などで口腔内外の組織を喪失後に行う顎顔面補綴治療を希望している方たちです。彼女は歯科技工士として通常、よく携わる治療から大学病院特有の治療に対して積極的にチェアサイドまで足を運び、また患者の補綴装置の作製に積極的に携わってくれました。特にセラミックを用いた装置やインプラントに関する装置は日本では保険適応外で高価なものであり、前者においては審美的回復が必要とされるところで、歯科技工士の技術が問われる業務になります。このような製作においては彼女の技術が生かされ、また、本院の歯科技工士からも彼らの技術を真摯に学び、実際に患者の要求にこたえることができたことは、彼女にとっても非常に大きな収穫だったのではないのでしょうか。

また、九州大学歯学部4年生の全部床義歯学、部分床義歯学、インプラント学の実習にサブライターとして参加し、学生の指導にも参加してくれました。特に義歯の作製過程に関する指導は、彼女の歯科技工士のキャリアが大きく生かされたところであり、多くの学生が、彼女がもつ技術を学ぼうと質問や見学に訪れていました。

このように彼女は我々の医局、講座に大きく貢献してくれました。彼女に対して心より感謝するとともに今後の彼女の活躍を心より祈っております。